



卓球バレー大会に参加して

埼玉県卓球バレー協会 米山あゆみ

平成29年6月18日(日)日本卓球バレー連盟の本拠地、京都市で行われた第37回全京卓球バレー大会に埼玉県卓球バレー協会から指導員4名が参加させていただきました。今回、参加させていただいた目的は、大会開催の企画、運営方法などを学ぶための視察と京都観光でした。

埼玉県卓球バレー協会は平成28年に設立し、県内各地域で卓球バレーを普及する講習会や大会の開催、指導員の育成などを行っています。

埼玉県での卓球バレーの歴史は、平成23年12月に福島市で堀川裕二先生から指導を受けたことが始まりだといわれています。その後、平成26年に県東南部を中心としたスポーツイベントを通し、卓球バレー普及や競技者育成のた

めには指導者が不足しているという問題が浮かびあがり、埼玉県卓球バレー指導者連絡会が発足しました。その結果、平成28年4月には、埼玉県民で指導者養成研修会を受講した人が66名になりました。養成研修を修了した多くの人は、審判技術の向上と共に、埼玉県全域での普及を望むようになりました。また、全国大会に参加して実力を試してみたいという団体も出てきました。埼玉県卓球バレー協会が設立しました。埼玉県卓球バレー協会設立後、役員を中心に各地域の公民館で審判指導・教育を行っています。また、各地域の事業協力を通して卓球バレー普及に取り組んでいます。

埼玉県の参加者の特徴は、障がいの中でも知的な人が多く、保護者が卓球バレーの楽しさに目覚め、講習会の参加

や、指導者養成の受講に積極的に行われている特徴があります。

今年6月に行われた、5回目となる草加市、越谷市、三郷市、八潮市、吉川市、松伏町の5市1町体育祭「草加パビリオンレクリエーションの集い」には34チームが参加し、10台の卓球台を準備しました。卓球バレーへの関心が、大変高まっています。

今回、卓球バレー大会に参加させていただき、出場チームが一般、学校、施設の部を合わせて80チーム、参加者がスタッフを合わせ700名という、大掛かりなイベントに参加させていただき、参加者人数に対して、どのくらいの会場、指導員が必要かを学ぶことができました。障がいの中でも、身体の人が多く参加しているように感じ、そのため、ボランティアの人数、会の進行などの違いを認識しました。また行政を巻き込み、府民の関心や協力を得やすくすること、一般の人に参加を促しているのではないかと感じました。障害の有無にかかわらず、スポーツに親しむ機会を増やすためには、どのようなかかわりが必要かを考えさせられました。

私自身、初めて他県での大会に参加させていただき、卓球バレーを通して、スポーツに

親しむ機会を増やすという目的は同じでも、県により、いろいろな特徴があることを学びました。京都の綺麗で穏やかな風景と共に、学びの多い週末を過ごすことができました。

第37回全京都障害者総合スポーツ大会参加受付

参加資格

京都府内に在住・在勤・在学する者で障害者手帳(身体・療育・精神)を所持する12歳以上

(申込書に男子は黒書、女子は赤書)

参加申込先

京都市左京区高野玉岡町5 京都府障害者スポーツセンター内
京都障害者スポーツ振興会

水泳大会の部

日時 8月20日(日)

場所 京都府障害者スポーツセンター

申込み締切 7月10日(日)

陸上競技大会の部

日時 9月10日(日)

場所 京都市西京極総合運動公園陸上競技場

申込み締切 7月25日(火)

行事予定	7月	11(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園	来月のつどいは
		16(日)	第37回全京都障害者総合スポーツ大会 卓球大会	京都市障害者スポーツセンター	
	8月	23(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	8 / 13
			乙訓障害者スポーツのつどい	向日市民体育館	
京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX 075-712-7010 http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2017年5月5日に一部更新)					第2日曜日

卓球バレー大会に参加して

北永颯子

鳴滝と対戦して大変だった自分たちの試合の前に同じ学校の別のチームの試合を観戦していたら、先生がそのチームの監督ではないのにいらんことを言っていて審判に注意されていた。

自分たちの最初の試合はいきなり鳴滝で結構大変だった。鳴滝が本気で試合をしているのに自分たちのチームの一部の人がやる気を出していないから困った。なんとか同点にはなったが鳴滝には負けた。

2回戦は西総合との試合にはなんとか勝った。一部の人にはやる気を出していなかったが...

卓球バレーの試合 楽しかった 悔しかった ではなく本気で疲れた。

第37回全京都障害者総合スポーツ大会卓球バレーの部

日時 平成29年6月18日 (日)

場所 島津アリーナ京都 (京都府立体育館)

出場チーム

- 地域 43チーム
- 学校 17チーム
- 施設 20チーム

一般の部

- 優勝 中京区B
- 準優勝 やまぶき
- 三位 キララ

学校の部

- 優勝 鳴滝ブルー
- 準優勝 鳴滝レッド
- 三位 西総合A

施設の部

- 優勝 西陣工房B
- 準優勝 西陣工房A
- 三位 みぶつくしいず

事務局就任のごあいさつ

事務局長 中村芳道

2017(平成29)年4月3日

京都障害者スポーツ振興会は、これまでの任意団体から法人格を所得し、「一般社団法人京都障害者スポーツ振興会」になりました。私はその2日前の4月1日に28年間事務局長を担ってこられた金子知拓さんの後任として着任しました。

これまで、つどいや各種スポーツ大会、練習会、イベント等に大勢のボランティアの一

人として振興会に関わってきましたが、これからは事務局長という立場でさらに深く関わり、京都の障害者スポーツの振興や発展に頑張っていきたいと思えます。今年1年は、初めてのことばかりでご迷惑、ご心配をおかけするかと思いますが、その時は率直にご指摘ください。よろしくお願います。

*

私の略歴を簡単に述べます。1980(昭和55)年大学卒業、2年間民間スポーツ施設でアルバイトやパート、特別支援学校(当時は養護学校)で講師を経て1982(昭和57)年、京都府中学校保健体育科の教員として採用され、京都府立桃山養護学校に赴任、以後、桃山養護学校23年、向日が丘支援学校12年間勤務し、2017(平成29)年3月31日定年退職しました。

*

私と振興会との関わりは、特別支援学校講師の時代に「京都障害児体育研究会」に参加した際に同じ職場の先生から振興会顧問の芝田徳造先生をご紹介いただきました。その時の芝田先生が語られた話の中で今でも鮮明に覚えている言葉があります。それは、「人の一生は障害のあるなしにかかわらず一回だけ」

「障害の重い人こそスポーツを「欲しい」「養護学校時代より卒業後のほうが人生は長いそのことを考えて教育をしていくのか」というものでした。また、同じ頃、振興会の事務局をしていた人(現在の妻)から府立体育館の「障害者スポーツのつどい」の話聞き、「一度どんなものか、見学に行ってみよう」と軽い気持ちで見学に行ったことがありました。見学だけのつもりが思わず自分も一緒にスポーツをしてとても楽しかったことを覚えています。以上2つのことがきっかけで振興会と関わりをもつようになりました。

さて、4月以降3か月が過ぎました。その間にいろいろな方と出会い、話をする機会がありました。数えてみると名刺が手元に82枚ありました。名刺を交換するたびに多くの方から前事務局長の金子さんの話をされていました。28年間、振興会の窓口としてきた顔として活躍されてきましたので当然のことだと思えます。私もこれからは振興会の窓口、顔になれるようつながりを大切にし、信頼が深まるよう務めていきたいと思っております。

今年、振興会の事業で、いくつか新しいことを検討し始めています。

一つは、「ホームページ」の改善です。もっと見やすい画面に、新しい情報を提供し、大会要項がダウンロードでき、申し込みはメールでもできるようにしたい等と考えています。現在、業者さんと検討中です。

二つ目に振興会が一般社団法人へ移行した事のお披露目と京都の障害者スポーツを広く紹介する「障害者スポーツフォーラム」の開催です。時期は、振興会の設立日11月29日が「2020東京パラリンピック開会式1000日前」にあたるのでこの前後の日を検討し、11月23日(祝・木)を検討しています。詳細が決まりましたら、お知らせいたします。ご予定よろしくお願います。

